

1. 研究課題名：

トキの野生復帰のための放鳥個体群・里山の管理手法と持続可能な地域社会モデルの研究



2. 研究代表者氏名及び所属：

永田尚志（国立大学法人新潟大学・研究推進機構・朱鷺・自然再生学研究センター）

3. 研究実施期間：平成 28～30 年度

4. 研究の趣旨・概要

佐渡島では 2008 年から環境省によってトキの野生復帰が実施され、2008 年以降、毎年トキを放鳥することで、「2015 年までに佐渡島に 60 羽のトキを定着させる」というロードマップ 2015 目標を達成した。しかし、野外での繁殖成功率が低いため、佐渡島のトキ野生個体群は毎年の放鳥によって維持されている。トキの野生復帰ロードマップ 2020 では、2020 年までにトキの定着個体数を 220 羽を目標としている。本研究では、佐渡島に何羽のトキが生息できるかを推定すると同時に、今後も増加する足輪のない幼鳥の家系を特定できる遺伝子マーカーを開発し、放鳥トキ個体群を生態学的・遺伝学的管理する手法を開発する。また、佐渡島の農地や山林の管理が生物多様性に与える影響を評価し、トキの野生復帰を実現する持続的な里地里山の管理手法を解明する。さらに、トキの稲踏み被害の実態を科学的に示すことで、地域住民との合意形成をはかり、将来にわたってトキと共存可能な地域社会のあり方を提案する。また、今後の高齢化・人口減少に伴う里地里山の変化予測から、長期的で最小限の管理手法により佐渡島に生息可能なトキの個体数を算出する。

5. 研究項目及び実施体制

- ①放鳥トキの繁殖失敗要因と環境収容力の推定（新潟大学・研究推進機構）
- ②放鳥トキの遺伝的管理手法の開発（新潟大学・農学部）
- ③トキの野生復帰のための里地里山の管理手法の研究（新潟大学・研究推進機構）
- ④トキと共存可能な地域社会モデルの研究（新潟大学・研究推進機構）

## 6. 研究のイメージ

